

入選

田中 杏美 (たなか あみ) 第一小 6年生

作品名：ヘレン・ケラーを読んで

図 書：ヘレン・ケラー自伝

私は、この本を読んでヘレン・ケラーという人はとてもすごいと思いました。小さい時に病気で音も光もない真っ暗やみの世界に閉じ込められてしまったヘレンのことを考えると、悲しい気持ちになります。それに比べて私達の生活は幸せだと思います。

ヘレンは、サリバン先生に出会って人生が変わります。それまで手で食べていた食事も、先生の教えで、フォークを使って食べられるようになります。それは簡単なことではありませんでした。ヘレンとサリバン先生とのやりとりはまるで戦いのようでした。

だんだんと指文字を覚えるにつれて、物には名前があることを知ったヘレンは、色々なことに興味を持ち、先生に教えてもらいながら言葉の意味を知り、どんどん新しい言葉を覚えていきます。先生が、実際に手で触れさせたり心で感じさせたりしながら教えることでヘレンにも優しい思いやりの心が生まれました。

もし私がヘレンの立場だったら、色々なことを途中で投げ出してしまうかもしれません。周りが見えないし、音も聞こえない状態は、きっと辛く悲しくとても不安なことだと思うからです。目や耳が不自由なのに、あきらめずに努力したヘレンは立派だと思います。

頑張っていたヘレンでも、「難しい、私には無理だ…」と思い、あきらめようとしたこともありました。それは、言葉を話すことです。耳が不自由なヘレンは、先生の口の中に手を入れて舌の動きで発音を学びました。なかなか思うようにいきませんでした。でも、家族のことを思い出して目標に向けて頑張りました。やはり、家族の支えは大きいのだと思います。

努力し続けたヘレンは、見事ハーバード大学に合格しました。講義を受ける時もサリバン先生の助けが必要でしたが、努力家のヘレンは見事大学を卒業しました。何事も最後まであきらめずにやり抜くことがとても心にひびきました。

卒業後のヘレンは、少しでも不幸な人達の力になりたいと思い、各地を旅して周りまわりました。ヘレン・ケラーは、「奇跡の人」とか、同じ苦しみを持つ人に希望を与える「心の灯」と言われています。ヘレンは三重苦を乗り越え、大変な苦勞をしたからこそ、他の目や耳の不自由な人を助けられたと思います。何事も努力をすれば、自分が成長し何かを達成できると思います。何度も失敗してもめげずに頑張ることが大事なのです。

たくさんの努力をすることで、自分のやりたいことが見付き、嬉しいことがあるのです。私は、ヘレン・ケラーのようにたくさん努力をし、自分のやりたいことを見つけ、将来は目や耳の不自由な人達を助ける仕事がしたいです。